

臨時評議会

平成四年四月二八日(火)

(議事)

一 平成五年度新規概算要求事項について

事務局案をもとに、五月一二日開催の評議会小委員会で検討の上、五月一九日開催予定の臨時評議会において決定することとした。

二 大学設置基準等の改正に伴う広島大学の教育研究の整備と改善について(大綱)

「学部」の教育の整備について、「大学院」の教育研究の整備充実について」及び「自己点検・評価について」及び「自己点検・評価規程の制定について」については各部署で検討の上、五月一九日開催予定の臨時評議会に諮ることとした。

第四四五回評議会

平成四年五月一二日(火)

(教員選考報告)

理学部

教授 道端 齋(環境生物学)
助教授 小平治郎(素粒子論)
講師 中山裕道(位相数学)

医学部

教授 梶原博毅(基礎理学療法学)
助教授 河村光俊(運動・代障害理学療法学)
講師 春間 賢(内科学第一)
歯学部附属病院
講師 野村雅久(第二口腔外科)

工学部

講師 山口登志子(応用数学)
生物生産学部
講師 上野 聡(食品科学)

(報告)

一 広島大学同和委員会要項の改正について報告があった。

二 平成四年度広島大学入学試験状況(医学部保健学科)について報告があった。

(議事)

一 広島大学学位規程の改正について原案のとおり承認し、本日付で制定・施行、平成四年四月一日から適用することとした。

二 広島大学とパリ第四大学フランス文明研究センターとの間における学生交流に関する協定の締結について原案を一部修正の上、締結すること承認した。

三 オプザーバーの追加について

教務委員会委員長を評議会のオプザーバーとして出席させることを承認した。

四 臨時評議会の開催について

臨時評議会を五月一九日医学部附属病院大会議室において開催することとした。

臨時評議会

平成四年五月一九日(火)

(新オプザーバーの紹介)

教務委員会委員長 米谷 巖
(文学部教授)

(議事)

一 平成五年度新規概算要求事項について

原案のとおり承認した。

二 大学設置基準等の改正に伴う広島大学の教育研究の整備と改善について(大綱)

「学部」の教育の整備について「大学院」の教育研究の整備充実について及び「自己点検・評価規程の制定について」については、原案のとおり承認した。なお、広島大学自己点検・評価規程については、本日付で制定・施行することとした。

モニターから・編集者から

23期9号

表紙のデザインを含め本誌の印象について

◆教職員から

「広大フォーラム」の字が大き過ぎる。／殆どの人は読んでいない。／大学の組織運営に関するものも含め多様な情報を期待する。表紙で大切なこと

◆学生から

配色、デザインなどスッキリしているが面白くない。／表紙は写真を載せて明るいイメージのものが良い。／表紙に内容も書かれており良い。／読者として学生は重要だと思うが、この表紙は学生から敬遠されるのではないかと。

「特集記事」について

◆教職員から

「危険がいつばい」良い企画である。学内の車、自転車の駐車について指導する企画も欲しい。学生のマナーが極めて悪い。／教職員には余り興味がない。／高校までの管理教育を再現する必要はない。／学外者の投稿が良い。

◆学生から

カード地獄の記事にもっとスペースを割いたほうが良かった。友達もかなりカードを使っている。／他人事ではなく興味深かった。／新入生へのメッセージは紋切り型、誰も読まない。

「開かれた学問」について

◆教職員から

学内の他分野における研究にふれることのできる貴重なページである。／学生は学問の徒として自己の立場を肯定するための高邁な雰囲気や情報を求めている。

◆学生から

広島大学における立派な研究を知って誇りに感じる。他学部のことも良くわかる。／非常に分かりやすい。／自分の知らないところで科学が進歩していることを認識した。／今回の記事の

予告が欲しい。／将来自分がお世話になるであろう技術に興味を持った。

「留学生の眼」について

◆教職員から

留学生の帰国後の消息も知りたい。／留学生の持つ問題を知るだけでなくその解決に努める必要がある。

◆学生から

平素留学生の苦勞を余り考えない。この欄の記事がそのきっかけになる。／学内の留学生数、国の構成など知らせてほしい。

今後に期待する記事など

◆教職員から

昔のフォーラムは余り読まなかったが、縦書き、カラー印刷で楽しく読んでいる。／学生の意見を尊重すべきである。元来本誌は学生の立場を尊重することから出発したと理解している。

◆学生から

もっと多くの人に読んでもらいたい。／写真の色調が暗い。／西条キャンパス付近の情報が知りたい。他の方法で知りうる情報を掲載するのは無駄である。本誌でしか知りえないような内容に期待する。／このような内容では雑

誌として発行する必要はない。

23期10号

表紙のデザインを含め本誌の印象について

◆教職員から

文字が多く、関心のあるところ以外はほとんど読まない。／少し地味である。もっと明るい表紙にならないか。／あか抜けしていて良い。読みやすい。／デザインに不満はない。色は期ごとに揃えてはいいが。／表紙の色は暗い。

◆学生から

積極的に読もうという気にならない。／とつきにくい。／色調のはっきりしたものが良い。／インパクトがない。／シンプルで良い。

「特集記事」について

◆教職員から

図書館の問題点が良く分かった。／図書館の問題は重大なことである。／特集の着眼点は良いが学生にも理解しやすい内容にすべきである。／図書館には明るい未来より、暗い、困難な未

来が待っているのか。／図書館運営の苦勞が理解でき、良い企画であった。／広報委員の意見は読みやすい文章であった。

◆学生から

学生を対象とするならもっと興味を引くものを掲載してほしい。／図書館の理想と現実の間にギャップがありすぎる。理想に近づけてほしい。／一般の教官、学生の意見も聞きたい。

「開かれた学問」について

◆教職員から

専門的な言葉がでると戸惑う。／この記事が一番おもしろい。専門用語に注釈が欲しい。

「留学生の眼」について

◆学生から

外交辞令でなく本音の意見が聞きたい。／日本語で書いてほしい。

◇この欄を担当する最後の機会となった。皆さんから賜った多数の貴重なご意見に感謝する。これらを本誌のうえに十分反映させてもらうよう新委員会にお願いする。